

## 2016年日本ウナギ会議 要旨

2016年日本ウナギ会議実行委員会

主催：2016年日本ウナギ会議実行委員会

日時：2016年5月31日（火） 13:00から17:00

場所：中央大学後樂園キャンパス 5136教室

参加者（順不同・敬称略）：有山義昭（環境省）、吉永龍起（北里大学）、太田慎吾、中奥龍也、清水孝之、釜石隆、藤光智香、高瀬美和子、番場晃（水産庁）、森山喬司（日本鰻輸入組合）、山本泰幸（イオントップバリュ株式会社）、木村伸吾、青山潤、吉田丈人（東京大学）、白石広美（トラフィックイーストアジアジャパン）、及川浩之（株式会社大地を守る会）、白石嘉男、若林稔（日本養鰻漁業協同組合連合会）、内田和男（全国内水面漁業協同組合連合会）、箱山洋、横内一樹、浜野かおる（水産研究・教育機構）、秋山貴彦、高野智沙登（パルシステム生活協同組合連合会）、中村祐治、橋本大希（株式会社ベニレイ）、大和田猛（伊藤忠飼料）、柵瀬信夫（鹿島建設株式会社）、海部健三、脇谷量子郎、山岡未季（中央大学）

（注）各参加者は、それぞれの所属組織を代表するものではありません。

議長：海部健三（中央大学）

要旨：会議の内容を以下にまとめる。

### 記

- (1) 水産庁の太田慎吾審議官より、CITES CoP17 に対する EU の提案の内容について解説が行われた。
- (2) 中央大学海部健三准教授より、日本ウナギ会議に対するロンドン動物学会から事務局運営のための支援を受けていること、および、支援に対する報告として、今回の会議の成果物を提出することについて、報告が行われた。
- (3) 中央大学山岡未季専任研究員より、「本邦におけるニホンウナギの保全に関する取り組み」の調査結果の報告が行われた。
- (4) 取り組みの現状を受け、今後行うべき取り組みが議論された結果、以下の課題に対する取り組みが優先されるべき、との合意に至った。
  - i. 採捕、漁獲管理
    - シラスウナギ
      - 正確な採捕量と努力量の把握
      - 科学的根拠に基づいた池入れ制限量の決定に向けた作業
    - 黄ウナギ・銀ウナギ
      - 下りウナギの採捕禁止・自粛に向けた取り組みの推進
  - ii. 流通と消費
    - シラスウナギ
      - 流通の透明化に向けた関係者との話し合い
  - iii. 成育場環境
    - 生態系に配慮した河川・沿岸管理
      - 生態系に配慮した構造物の構築・更新

- 川と海のつながりの回復
  - 氾濫原の代替（水田、遊水池）の活用
  - 河口干潟の保全と回復
  - 優良事例の創出と紹介
  - 生態と取り組みの効果のモニタリング手法に関する調査研究
  - iv. 資源動態のモニタリング
    - 資源動態を把握するための研究者による指標の検討（日本＋東アジア）
    - 取り組みの効果のモニタリング
  - v. 社会全体の情報共有
  - vi. その他
    - 放流の効果・影響と効果的な手法の検証
- (5) 今回議論された「今後行うべき取り組み」について、文書に取りまとめることが合意された。文書は2017年日本ウナギ会議実行委員会が事務局となって草案を作成し、回覧と修正を加えて公開する。
- (6) 2016年秋に予定されている「うなぎ・プレアセスメント」に対し、会議の参加者に情報提供等の協力が呼びかけられた。
- (7) 2017年日本ウナギ会議実行委員が選出された（順不同・敬称略）。太田慎吾（水産庁）、木村伸吾（東京大学）、吉永龍起（北里大学）、内田和男（全国内水面漁業協同組合連合会）、柵瀬信夫（鹿島建設株式会社）、横内一樹（水産研究・教育機構）、高野智沙登（パルシステム生活協同組合連合会）、若林稔（日本養鰻漁業協同組合連合会）、白石広美（トラフィックイーストアジアジャパン）（仮）、海部健三（中央大学）。2015年日本ウナギ会議での合意に従えば、2017年日本ウナギ会議の開催時期は、2017年5月ごろとなる。
- (8) 要旨は公開、議事録は非公開とする。

以上